

# り、山田の遺跡



六年B組 大谷 紗代  
矢田 恵理佳

七四三市小中学生作文作品集一由品作	
姓 名	甲子年
年 年	大谷紗代
性 别	女

## 1. 動機

学校の社会の勉強で、旧石器、縄文、弥生、古墳時代等を習って、三内丸山遺跡、吉野ヶ里遺跡等も学び、昔のことについても興味を持ちました。最近、松阪で船形はにわが公開され、全国的に有名になりました。北松の菅野遺跡の説明会にも参加でき、鈴鹿の国分寺跡を見てきました。それで、私たちの住んでいる小山田地区にも遺跡はないのか知りたくなりました。

## 2. 調べ方

四日市市役所で遺跡地図を入手しました。

四日市市内には、思ったより、遺跡が多く、びっくりしました。とくに水沢地区から小山田、内部地区にかけても多くあることが分かりました。そこでまず、遺跡地図をもとに、小山田地区にしほって、現地を確認することにしました。

### 3. 參考

8月4日 菅  
説明会会場にて



写真は 小山の西村一善  
さんに いただいたものです。



田場古墳から日本最大の馬鹿形はにわか出土



8月6日



8月19日  
船形はにわ展  
松阪市文化財センター



# 佐賀県 吉野ヶ里遺跡



A micrograph showing the internal structure of a red blood cell, which appears as a central, pale, circular area surrounded by a darker, granular border.



# 4. 小山田地区の位置

図1



図2  
四日市市



図3  
小山田



小山田地区は、西に鈴鹿山脈を望み、これに源をもつ内部川、鎌谷川、足見川（あひ）天白川が地区を東西に流れる起伏に富んだ丘陵地である。地区の東西は約6.9km南北は約5.6kmあり、地域の全面積が農業振興地域に指定された田園地帯となっている。

小山田には小字名が154ヶ所あります  
(山田町)

内山町) 城之山、仲尾、大龜谷、笠山、藤原、高砂。(6カ所)  
小山町)

野、足見川、大欠、大嶋、嶋界外、欠下、小北、開都、北河原山  
東南、平南、烟、都、子、犬谷、谷、野田、早、上り、小七  
田、東北野、西北野、鎌都、鳩谷、新田、官、前、北畠。  
西山町) (25ヶ所)

戸谷、小山崎、小割、仲畑、平野新田、官ノ前、屋敷西  
大沢。  
(8ヶ所)

(六名町)

乗竹、折戸、山添、中山、株野、西起、東起。(7ヶ所)

(鹿間町)

東山、出口、市場、中屋敷、小西山、大道端、孫ヶ谷、穴塚、野端  
西坂、椎木、西川原、七曲、田尻、牛草、古屋敷、南条、小垣  
外、出水、大垣外、中川原、河田、長泥、東川原、川原山、牛頭、  
東北山、道地川、北起、北谷、天皇、中村尻、西起、山々口。(34ヶ所)

(堂ヶ山町)

大脇、小脇、下大塚谷、中野、大塚下、神明、堂山、東川原、東田  
細田、室掛馬場、別所、花木、山神、一色、東北山、札木、道々  
西札木、北山、一色山、上大塚谷、大塚野、梨木沢、大沢。(25ヶ所)

(和無田町)

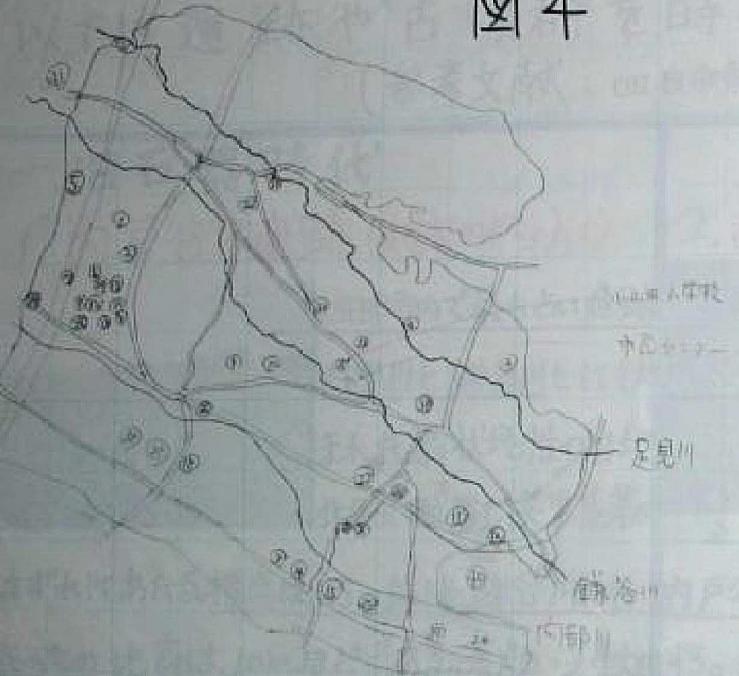
的場、西口、大開戸、南浦、東条山中、丸市、荒堀、河田川原、  
椎木、東野、丸山、東堀、荒野、南荒野、三条、西堀、山下。(17ヶ所)

(美里町)

北野、北山、南大沢、小割、小山崎、内戸谷。(6ヶ所)

# 5. 小山田地区の遺跡

図 4



① 内戸谷 B 遺跡  
② 西山小割 遺跡  
③ 宮中蔵尾遺跡  
④ 中内戸谷 A 遺跡

⑤ 美里東北山 A 遺跡  
⑥ 一色山 遺跡  
⑦ 別所 遺跡  
⑧ 狐久保 A 遺跡  
⑨ 狐久保 B 遺跡

- ⑩ 大玄 遺跡
- ⑪ 大坪 遺跡
- ⑫ 大畑 遺跡
- ⑬ 大道端 遺跡
- ⑭ 小西山 遺跡
- ⑮ 一木 遺跡
- ⑯ 札木 遺跡
- ⑰ 東堀 遺跡
- ⑱ 出口 遺跡
- ⑲ 鹿間 東山 遺跡
- ⑳ 鳩子 古墳
- ㉑ 平野 古墳
- ㉒ 和田ヶ原 古墳群
- ㉓ 大塚野 古墳群
- ㉔ 赤池 古墳
- ㉕ 北野 遺跡 (地区外)

- ㉖ 大名山添 古墳群
- ㉗ 向山 古墳群
- ㉘ 折戸 古墳
- ㉙ 東起 古墳
- ㉚ 穴塚 古墳群
- ㉛ 堂ヶ山中野 A 遺跡
- ㉜ 勝山中野 B 遺跡
- ㉝ 天神 遺跡
- ㉞ 美里東北山 B 遺跡
- ㉟ 丸山 遺跡
- ㉞ 向山 遺跡
- ㉜ 山田城 遺跡
- ㉙ 和田城 遺跡
- ㉞ 和鹿城 遺跡
- ㉞ 扇広 遺跡 (地区外)
- ㉞ 青木川古墳群 ( )

ほとんどの場所が、はっきり分からなかったり、消滅古墳であったりしたので、  
遺跡や古墳群を確かめるのが大変難しかった。  
以下に遺跡や古墳群を時代順に並べてみた。

(参考文献 四日市市史 第二巻 史料編考古Ⅰ, 第三巻史料編考古Ⅱ) 番号は図4より

## 一、旧石器時代

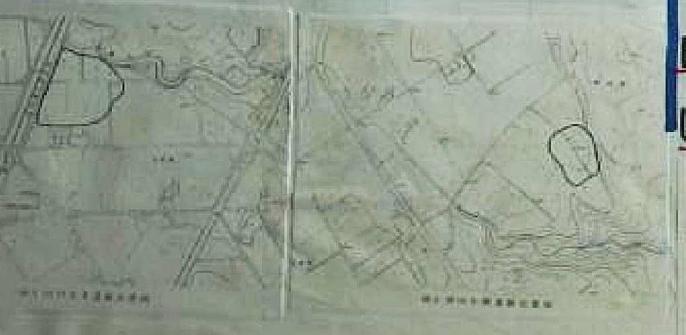
### 1. 内戸谷B遺跡(美里内戸谷)①



四日市市内で最も古い遺跡

内部川と鎌谷川に挟  
まれた扇状地性の台地  
北側に位置し、美里集落の

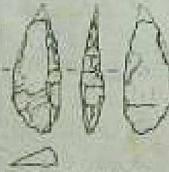
すれにあたる標高は115m前後。鎌谷川の谷  
からの比高は10mほどである。茶畠・芝生畠  
・植木畠が多い。ナイフ形石器が一点、茶畠で  
集められ、旧石器時代に使用することが判明した。



### 2. 西山小割遺跡(西山町字小割)②



遺跡中央 東側(リ)  
内戸谷B遺跡と同じ台地上で、南東約900mに位置  
する。遺跡は台地北側に馬背状に張り出した小  
支丘である。南側に、鎌谷川の小支流が西から東へ流  
れる。植木畠および畠地で、東と西は山林で、農道より  
良好な石核一点と植木畠より質の悪いチートを利用  
した石核一点、および数点のチート剥片を採集  
した。



### 3. 宮蔵遺跡(山田町字宮蔵)③

山田集落と高花平田地との中間に枝分  
かれして半島状に延びる台地のほぼ  
先端近くに位置し、南側に足見川の開  
析谷を臨む。標高は約70mほどで  
平坦面をなす。茶畠および畠地から  
ナイフ形石器が採集された。チート  
の剥片には、良質のものがあり、旧石器時  
代に属するものと考えられる。東側は茶畠  
であり、その広がりは不明である。



## 二、縄文時代

### 1. 中尾山遺跡(山田町字中尾山)④



足利川中流の開析谷に所在する

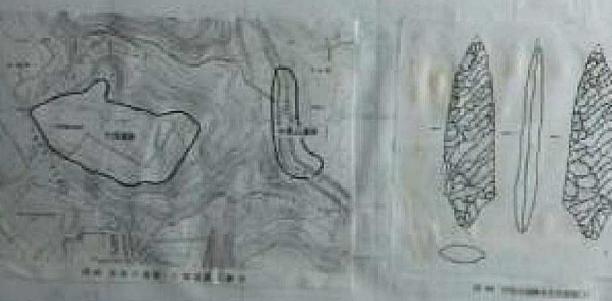
山田町から林町に至る県道西

側の谷間にこの地区の河川改

修復等による堤防工事の際に河

床より、縄文時代草創期の有舌尖頭器一点が  
天田勝藏氏によって、採集された。

南北の台地との比高は、25mほどである。



### 2. 内戸谷A遺跡(美里町字内戸谷木井野橋場)⑤



鎌谷川上流南岸の開析谷に

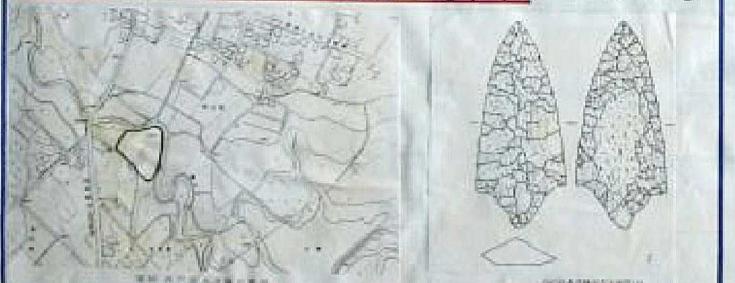
立地する国道306号(近見街道)

鎌谷川に架かる近見橋の東方約20m

にある。縄文時代草創期の有舌尖

頭器一点を採集された。谷木田は、幅約10cmほどで、前後の段  
差をもって開かれている。南東約1kmの台地上には、ナイフ形石器や石  
針族が採集された。

県内出土の有舌尖頭器は、約80の所で確認されているが、そのうち  
サスカイド製のものは、25か所ほど、見ついている。市内では現在のところ  
唯一の例である。なお、実物は現在行方不明となっている。



### 3. 美里東北山A遺跡(堂ヶ山字東北山)⑥



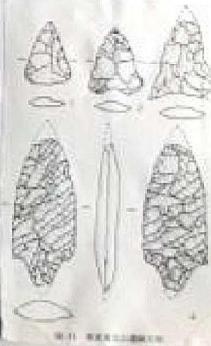
内戸川中流北岸の台地上に

立地する。堂ヶ山町から台地南北

に西へ走り美里町に至る農

道の南にあたる標高は102m

前後である縄文時代草創期の有舌尖頭一点と打製石針族  
三点、チャート剝片一点が採集された。県内でも、この時期の遺跡  
が最も集中する地域の一つである。



## 4.一色山遺跡(堂ヶ山町字一色山)⑦

内部川中流北岸の開拓扇状台地

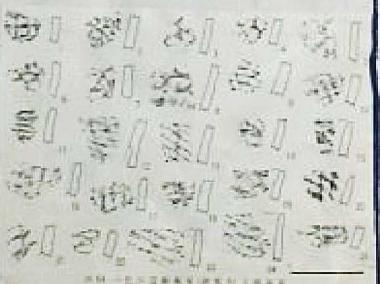
に立地している標高104m前後で、北

西から南東へと緩やかに傾斜して開  
拓台との比高は15mほどである。

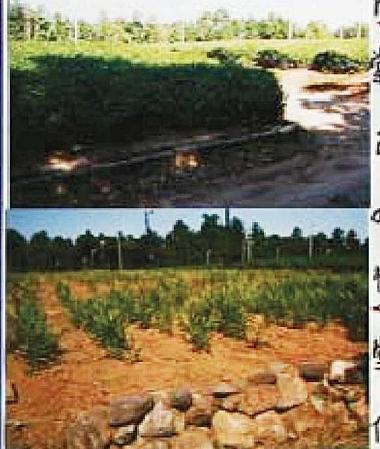
8ヵ所の小規模な凹面が平底梢円形と馬蹄形をして2種類の窯  
工(炉址)が確認され、馬蹄形のものは内側に炭化物が薄く  
認められた。押型土器のことを推定されている。押型文  
土器や石器のほか、弥生時代中期ごろの条痕土器  
が出土している。

石器には有古尖頭器・石鎌・削器・楔形石器・礫器・  
刃・有調整剥片・剥片などがある。

土器の厚手で外反する口縁や縄文施文をもたないことが神  
宮式土器に属するものと考えられる現在県下出土の押型土器  
土器跡は7ヵ所があり、神宮寺式や大川式を主体とし、最古の土器群とされる。



## 5.別戸遺跡(堂ヶ山町字別戸)⑧



内部川中流北岸

堂ヶ山集落の北側に

古れに張り出した苦

の田原先端に立地

標高104m前後で、

堂ヶ山集落の所産する

低地からの比高は、

## 6.黒久保遺跡(堂ヶ山町字黒久保)

内部川中流北岸

に立地する。山田町より、山田南院

に立地する。山田町より、山田南院

金谷川中流域南岸の台地上

に立地する。山田町より、山田南院

金谷川中流域南岸の台地上

標高90m前後で、金谷川の開

河川ほどである。薪畑がほとんどで、東端にて一部普通の

薪畑が存在して、この畑から多くの遺物を採集した。薪畑

遺物としては、石鋤・剝片・碎片・磨製石斧・打製

石斧・同木製品・縄文土器・弥生土器および、鐵道時

代の土師器・山皿・山茶碗片などである。薪畑のため、

遺跡範囲はも確定しがたい。

作成の凹基盤・茎式石鋤・点上鉢

のチャート剥片と採集したばかり。

山茶碗・小片と土師器・小片ヒ

土師器片も見ている。

## 7. 狐久保B 遺跡(山田町狐久保)⑩



狐久保A遺跡と同じ台地上の  
縦谷あり同遺跡の南東約400mにて  
お行く山田町なり。山田派出所旧館を  
経てこの遺跡跡跡に至る小道の北側斜面

## 8. 大玄遺跡(山田町宇大玄)⑪



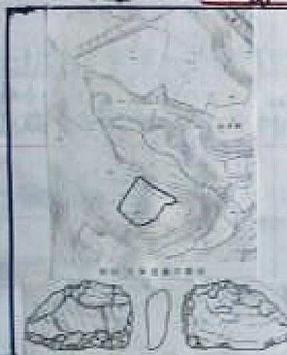
ミレク道路が錦谷川を南へ流れて  
すぐの1段低い台地上に立地。道路  
の西側に立地する標高は55m前後で、錦  
谷川の沖積低地からの比高は15m前後。

## 11. 大道端遺跡(鹿間町宇大道端穴穴塚・宇敷塚)⑫



内部川中流南岸の台地上に立地し、  
標高は約5m。前行きである鹿間集落の  
西側にあり、県道錦宮妻ヶ崎線の  
南北に広がり、西方向に傾いて立地する。

ある。北側に緩やかに傾斜するため、土壁は赤褐色である極めて古いものである。細地および植木焼として利用されている。サスカイト剝片と良質の  
限られた範囲(東西60m、南北40m)から有調整剝片・斜従長剝片・  
剝片・碎片などが採集された。これらの遺物は「旧石器時代」に属す  
可能性もある。



## 9. 大坪遺跡(山田町宇大坪)⑬

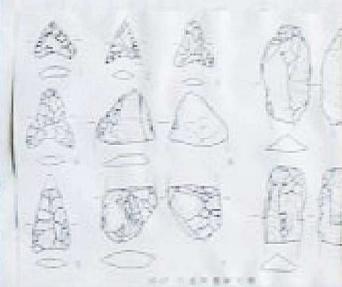


大玄遺跡の南東約300mの台地上  
立地する。土砂高地の先端部に位置する。  
標高は約5m。斜面北側に立地する。斜面  
の前罠点と斜面剝片が採集された。

## 10. 大畑遺跡(山田町宇大畑)⑭



足見川中流南岸の台地上に立地する。  
山田集落の西方で、小山田小学校の  
北側にあたる。南北に傾いた  
谷が入り込み、遺跡の所在する台地  
は東へ舌状に張り出している。標高は  
82m前後で、谷底からの比高は30mほどである。細地・大畑焼  
木焼・荒地などがあり、小山田電話交換局周辺にヒビ車交的遺  
物がまとまっている。サスカイト剝片の飛行剝片と呼ばれる特異な有  
茎石錐一点とさくら剝片が調整を加えた斜従長剝片が見つかった。



### 三、弥生時代

#### 12. 小西山遺跡(鹿間町字小西山)⑯



内部川中流南岸の台地北縁に立地する鹿間集落の西はやや近くにあり、鹿間町より六名町へ至る道路車側にあたる辺りにおいて植木畠がある。

七曲遺跡として登録されたが、遺跡は字小西山に属しており、遺跡名を導入したが、芝生畠となりその広がりを確言することはできない。記のとおり改め。採集遺物としては、石鎌・有調整剝片・系從長剝片か  
レ剝片(チャト石英)・碎片(チャト、サカイ)のほか、縄文時代の須恵器片、平安時代以降の山茶碗・青磁・土師器・管状土錐・陶器片などが  
ある。以上の石器は、今ひとつ確実な所属時期は不明であるが、旧石器時代に属する可能性がある。

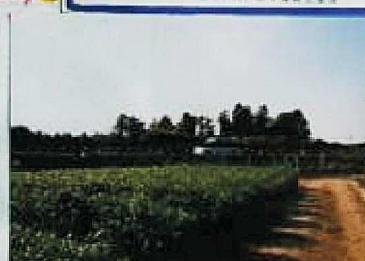
#### 1. 内戸谷B遺跡(美里町字内戸谷)⑰

金兼谷川上流南岸の扇状地性台地の北縁に立地する。遺跡の範囲は東名阪自動車道とミルク道路との間で、ミルク道路から美里町に至る北端の農道に挟まれた地域である。しかし、現在はそのほと

んどが芝生畠となりその広がりを確言することはできない。ミルク道路に近い北端の畠地で石鎌と弥生土器を採集した。



#### 2. 一色山遺跡(堂ヶ山字一色)⑱



一色山中世墓

内部川中流北岸の開拓扇状台地上に立地している。開拓谷との比高は、1.7m。がうがう開かれ  
たのである。出土遺物は縄文時代早期から中期にかけての有孔大頭器や押型文器とともに、弥生時代中期以降と考えられる土器片が確認されている。

#### 3. 一色遺跡(堂ヶ山字一色)⑲



内部川中流北岸で、堂ヶ山集落の北西に舌状に張り出した台地先端に立地する。一色山遺跡の約

500m、南東にあたる。南側は、東名

阪自動車道を越えて入り込む浅い小支谷となる。北側も同様に小支谷があり、大沢上・下両池と北谷上・下両池が、この谷筋を流れ、支流を塞き止めて造られている。西側には、一色坂塚の堀割・土壘となり、山林となっている。標高は100m前後で、南側低地面が5mの比高は15mほどである。遺跡の範囲は、東西約420m、南北240mと、内部川中流域では最大規模である。遺跡のほと

んどは茶畠で、一部普通の茶畠や植木畠となっている。採集遺物は、多量で、弥生時代では石鎌・石片・弥生土器片がある。

一色山遺跡とともに、弥生時代の遺跡が集中する地域であり、南部の開拓谷を利用した耕作文化の發展



#### 4. 札木遺跡(堂ヶ山町字札木)⑯



一色遺跡の東側へ谷一つ隔てた台地上にあり、堂ヶ山町が美里町へ至る農道の北側に所在する。周囲は密植された茶畠であるが、改植中の茶畠より弥生土器片の数点が採集された。時期的には中期せいし後期ごろのものと考えられる。

#### 5. 宮蔵遺跡(山田町字宮蔵)⑰

足尾川中流北岸に吉林で張り出した台地先端に立地している。山田町の集落より高花平田地へ至る県道小林鹿間線の東側にあたる。標高76m前後で、畑地および茶畠として利用されている。旧石器時代のナイフ形石器一点とともに基無茎式のチャート製石鏃と山基無茎式のサヌカイト製石鏃の各一点と鋸片・研片(セスキアイト)および弥生土器片一点が採集された。

および弥生土器片一点が採集された。



#### 6. 東堀遺跡(和無田町字丸山・字東堀)⑯



内部川中流南岸の台地北縁に立地する。鹿間町より和無田町へ至る県道金鹿官妻峠線の北側で、和無田集落の東方斜面あたりに位置する。標高は80m前後で、北側の内部川沖積低地へは急斜面となり、比高は20mほどである。周囲は全面茶畠で県道より直

に北東へ分岐する農道突きあたりの茶畠で、  
弥生土器を一括して採集した。弥生土器はい  
ずれも弥生時代前期に属するに考えられている。

#### 7. 大道端遺跡(鹿間字大道端・字穴塚字孫ヶ谷)⑯

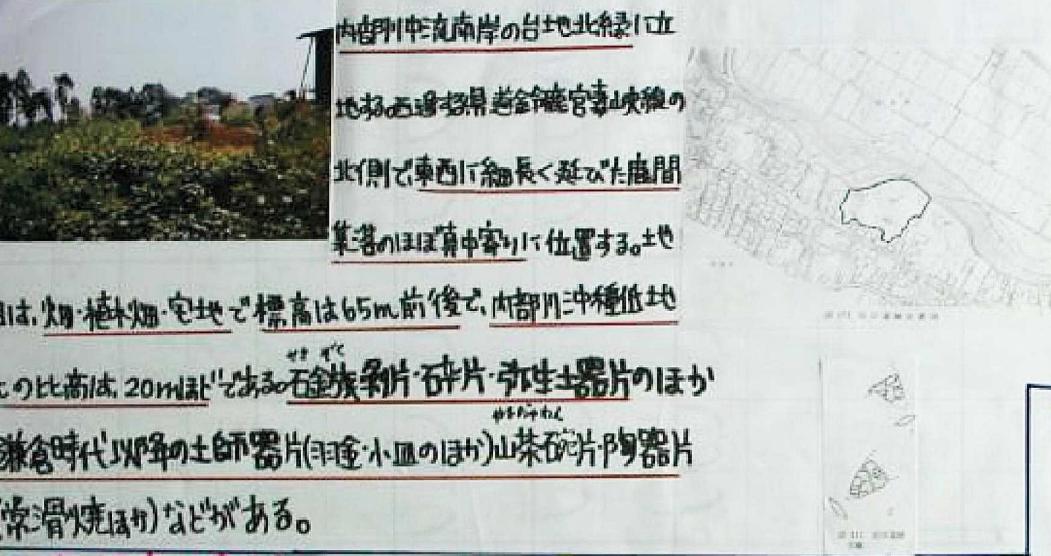
内部川中流南岸に立地する。鹿間集落の西はずれにあたり県道金鹿官妻峠線の南北に広がっている。標高は70m前後で、畑地や植木畠となっている。縄文時代と考えられる打製石鏃・有調整剝片・縦長剝片・剝片・縄文土器片や古墳時代の須恵器片などとともに、弥生時代の磨製石鏃一点が穴塚古墳群1号墳の東側畑地で採集されている。南側の金鹿布城山がる浪速川の開析谷は現在と同様谷水田として利用されたことが考えられ、弥生時代の集落立地としては、最適の地と言える。



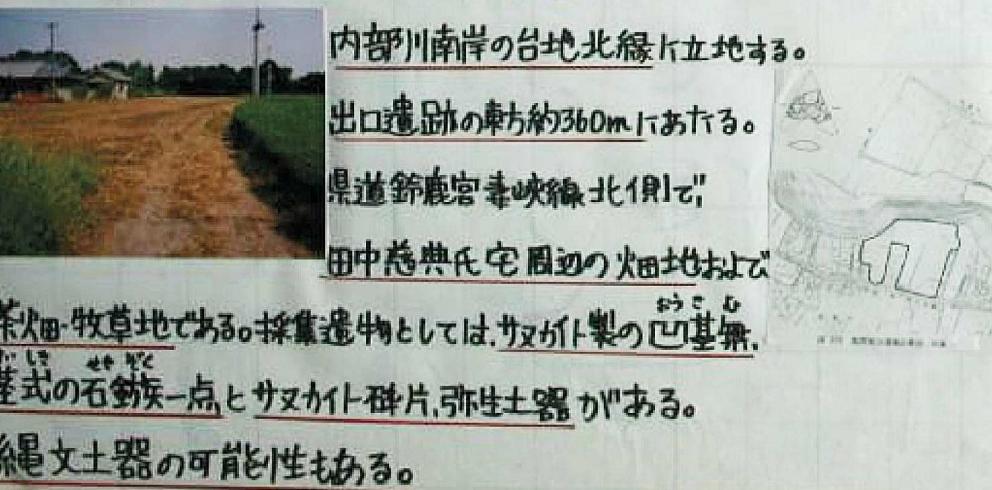
写真は縄文時代の  
ものと同じです

写真は、  
あります

## 8. 出口遺跡(鹿間町字出口)⑨



## 9. 鹿間東山遺跡(鹿間町字東山)⑩



## 四、古墳時代

### 1. 九鳥子古墳(小山町字開部)⑪



四日市市市の西南部錦谷川に沿って西から東南にかけ  
状台地が幾重も並びているが、本古墳は発掘された平野部  
墳の北側の台地の縁側に位置していた。古墳であつたが言  
細な調査をうけることなく現在消滅してしまっている。

鹿器の出土が伝えられている。近くに足見川が流れ、

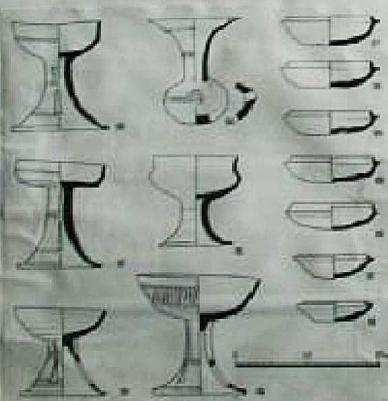
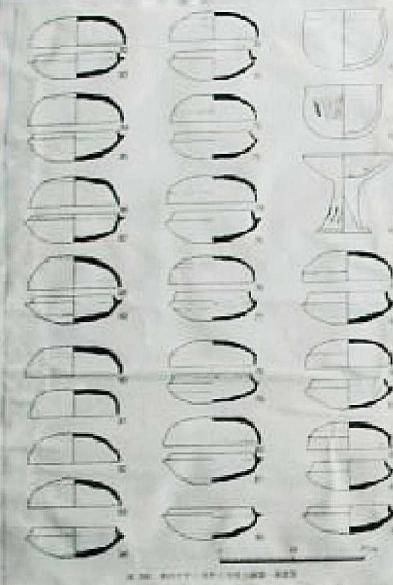
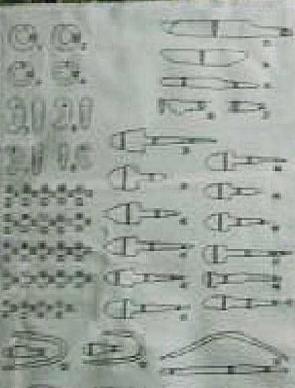
### 2. 平野古墳(西山町字平野新田)⑫



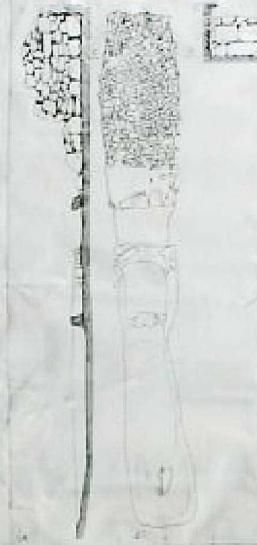
四日市市東西部に広がる内部川開析扇状台地の一隅につくられた  
ものである。古墳のつくられた台地は、北側の足見川と南側の錦谷川  
それぞれの上流に開析されて西から南東に細長く続く。古墳は  
台地上でも北縁近くの一段高くした所から以て標高は20mで、北側の水  
田面との比高は約2mである。古墳の外形、規模については明らかではない  
が、内部構造は横穴式石室と思われる。鍍鉄・釣などと銅製品・土師  
器・須恵器が出土している。玉類などの装身具類は明らかでない。

### 3. 和田ヶ平古墳群(山田町字和田ヶ平)②

1号墳



大正15年調査報告書	
大正15年調査報告書	大正15年調査報告書



2号墳 西より



2号墳 南より

2号墳 南東より



3号墳 北より

## 和田ヶ平古墳群について

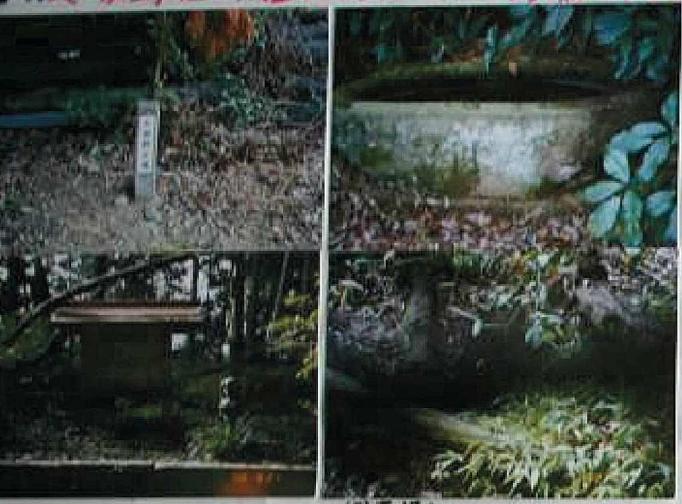
四日市市南部を流れる内部川の支流、足見川と鎌谷川にはさまれた台地の北のふちの上に築かれた全三基の円墳群である。この台地は、内部川開折扇状台地でも北部の小山田台地あたり、古墳のつくられた場所は標高90mで、北側の足見川谷底平地との比高が約20mほどある。舌地土は、北西から南東に向って緩やかに傾斜し、現在ほとんどが畑、茶畠として利用されている。一号墳、二号墳は、ほぼ南北にほとんど墳丘を接するよう、築かれていた。

一号墳の外形は、発掘調査着手時においてすでに墳丘の大半が削平され、西端部がわずかに残るだけであり、横穴式石室の石材が散乱した状態であった。埋葬施設は横穴式石室で、南東に開口している。

二号墳の外形は、石室の中心距離で一号墳の南西12mにある。発掘調査時には、墳丘すべて削平されていて、古墳の位置も全く認められないと状況であった。径約13.4m、高さ約75cmの円墳で、埋葬施設は、一号墳と同様、南東に開口した横穴式石室になっている。

三号墳は、これより南東へ約150m離れている。低い墳丘はそのまま全体に茶畠になっている。内部構造はよくわからっていない。これらの古墳は、古くから地元では「塚」としてよく知られていて、1964(昭和39)年5月、一号墳と二号墳が鈴鹿市椿一宮町内の土防工事用の土取場となり破壊されたため、同年8月から9月にかけて四日市市教育委員会が主体となって発掘調査した。この古墳については地主の竹内潔氏にたずねることができた。写真の石材は2号墳から出たものらしい。出土遺品は、四日市市立博物館の常設展で確認することができた。

#### 4. 大塚野古墳群(豊山町大塚木沢四郷)二号墳②



の最も西の地域に築かれた古墳群で、内部川の北岸の段丘上に六基の円墳で構成されていたが、現在、二号墳が完存するほか

二号墳の西約70m離れた三号墳が

わずかに痕跡を残す程度でほかの

四基は消滅している。本古墳群で最も

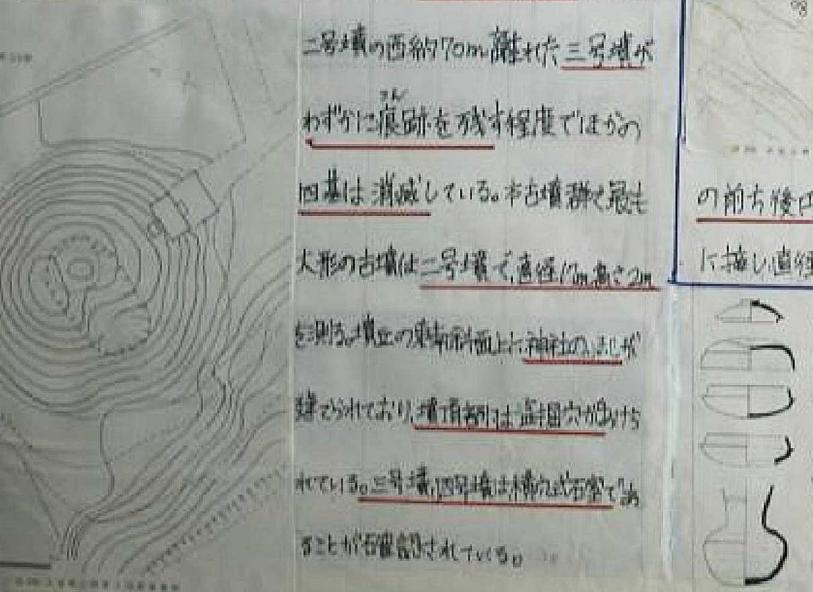
大型の古墳は二号墳で、直径10m高さ2m

を測る。墳頂の東斜面には神社の瓦が

積みられており、墳頂部には盗掘穴があつた

ところが正確な位置ではある

ことが正確な位置ではある。



#### 5. 赤池古墳群(豊山町下大塚谷・宇小日湖)②

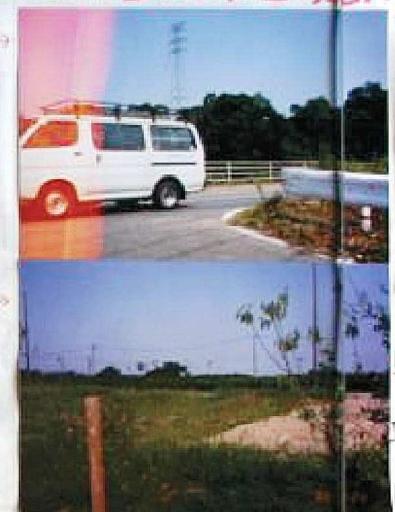


大塚野古墳群の東約1km離れた内部川北岸の丘陵斜面に築かれている。三基が分布する。このうち一号墳は農道によって半分に切掛けられている。全長約12m、前部長4.3mの前方後円墳とされているが、円墳である可能性の方が強い。一号墳の北側に掩し直徑5.5m、高さ1.5mの小内墳二基が並んでいる。三号古墳と内部全体など明分でない。

二号墳は直径12m、高さ1.2mほどの円墳である。一号墳の上の方には、現在、三基の円墳が並んでいる。横穴式石室と考えられる



#### 6. 六名山添古墳群(六名町山添)②



で五基の古墳群が成る。一号墳は最も山麓に近部位に造営されている横穴式石室であるが、現在、大きな凹み状となって原形を成していない。直徑12m、高さ1.2mほどの円墳である。一号墳の上の方には、現在、三基の円墳が並んでいる。横穴式石室と考えられる

### 7. 向山古墳(仙台市宮町向山、六名町字東起)㉗

内部川の北岸の段

丘上に位置する

古墳で県道木沢

本町糸崎・三井い

の畠中付ニ基

存在付直徑

3m、高さ1m前

後の円墳であるが、  
現在削平されて完全  
に消滅している。内部  
主体など不明である。

### 8. 折戸古墳(六名町字東起)㉘



内部川の北岸の段丘上に位置した古  
墳で、東起古墳に隣接してあった円墳  
である。現在完全に消滅している。須恵器  
高杯・杯の出土を伝える。

### 9. 東起古墳(六名町字東起)㉙



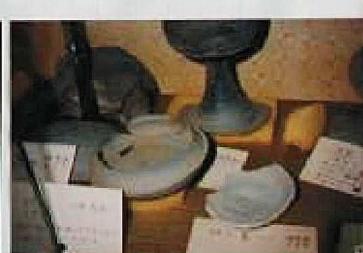
東側に東起古墳がある。  
西側に折戸古墳がある。

この一角だけの工事している

東起古墳の出土品が収められて

四日市市の南部に広がる内部川開析扇状台地の一角につ  
くられた円墳である。古墳のつくられた台地は南側の内部川と  
北側の鎌谷川とに挟まれて、北西から南東に細長く続く標  
高は約72m、南側の水田面との北高は、約20mほどである。出土  
品は六名町光輪寺において保管されている。寺の住職さんはよ  
れば、まが玉などは再び古墳に埋められたそうです。ある。  
墳丘は径約10m、高さ約1mの楕円形で、南に開口した横穴式  
石室があったと思われる。

### 東起古墳より出土した物



## 10. 宮塚古墳群(庵間町宇宮塚・字孫ヶ谷)⑩



内部川の南岸  
段丘上にあり、県道  
錦鹿宮妻峠線

山林内に社がある。入口は東側。  
位置する。旧来二基の古墳があったが、二号墳  
は、現在消滅している。本古墳は四日市市南部  
地域で最も大形の古墳で、直径30.1m、高さ6.0m

の規模を持つ円墳である。石材などの散乱もない  
所から、内部主体は石室を構築しない構造の棺  
であ、たとえられる。墳丘西および北側裾に周  
濠の遺跡がみられ、この地域では比較的古  
式の古墳であった。古墳の西側にある久間田神  
社周辺にも古墳がかつてあったことも伝  
えているが、現在ではまったく消滅  
し不明である。



## 五. 古墳時代以後

### 1. 堂ヶ山中野A遺跡(堂ヶ山町宇中野)⑪



内部川中流左岸の開析扇  
状台地に立地している。標高  
は、109mほどで、南側は屈  
曲した開析谷となる。土師  
器・須恵器・灰釉陶片・破片が出土した。



### 2. 堂ヶ山中野B遺跡(堂ヶ山町宇中野)⑫



中野A遺跡の東南約150m  
にあり、人為的な掘り害い  
を思わせる小谷を1だいた東  
側には、一色遺跡がある。  
土師器・須恵器・鉄器が出土した。

### 3. 一色遺跡(堂ヶ山町字一色)⑯

[卓真は弥生時代の  
？と同じ] 内部川中流左岸で、堂ヶ山集落の北西に舌状に張り出した台地先端に立地する。北側は小枝谷を利用した用水田となり、南側は内部川のはんらん源を利用した水田となっている。西側は浅い掘り割りの走る山林となり、その西方に中野B遺跡が所在する。遺跡の範囲は東西約420m、南北240mほどで、内部川中流域では最大規模の遺跡である。遺跡のほとんどは茶畠で、一部普通の畑や植木畠となっている。土塁と空堀が約150m続く。耕作者のヒアリングによると一色城と呼び、内堀と外堀の名が残るという。土塁や空堀の規模からすると館跡の可能性が高い。



### 4. 天神遺跡(堂ヶ山町字天神)⑬



#### 一色遺跡の東谷

つこえた舌状に張り出た台地上に立地する。

堂ヶ山町から美里町へ

至る農道の南側にあたる。土師器 龍口縁部破片・高壙の壺部破片等が出土した。現在は、一部野菜畠といっているが、その、茶畠であり、詳細を確認することはできない。一色遺跡から分村した遺跡であろう。



### 6. 西山小割遺跡(西山町字小割)②

[卓真は弥生時代の  
？と同じ]

伊勢型鍋口縁部や、山茶石砕片を少量採集している。

鎌谷川中流右岸の標高106m前後の扇状地性台地に立地する。西方約100mの地点をミルクロードが走っている。旧石器時代に属する縦長剥片石核以外に土師器



### 5. 美里東北山B遺跡(美里町字東北山)③



内部川と鎌谷川に挟まれた上流域の台地上に立地する。舌状に張り出た小台地の基部

にあたる。標高は101m前後である。堂ヶ山町より美里集落に至る農道の南側にあたる。土師器の龍口縁部の破片を採集した。同時に形石器一点と良好なチャート剝片を数点採集した。

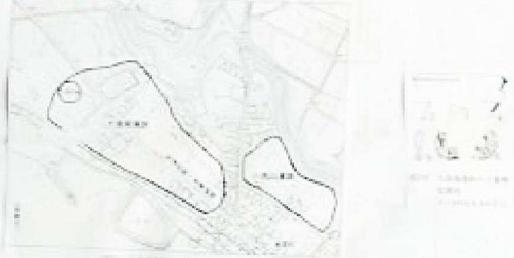
## 7. 丸山遺跡(和無田字丸山) ⑮



内部川中流右岸の段丘北縁に立地する。和無田集落の東北端にあたり、遺跡地内に高圧電線鉄塔が所在する。標高は82m前後で、内部川沖積低地との比高差は10mほどである。茶畠で、遺跡の範囲や遺物の分布状況を確認するのを容易でない。わずかに残る露地面で、須恵器甕片・須恵器底片・灰釉陶器壺片・山茶碗片などが採集された。平安時代後半から鎌倉時代にかけてのものと考えられる。高圧電線鉄塔近くには、かつて神社が建っていたと言われ、また字名の丸山は、和無田城にかかる地名ともいわれている。

## 8. 大道端遺跡(鹿間町大道端) ⑯

内部川中流右岸の標高72mから71mの前後東西に馬背状になった台地上に立地する。鹿間集落の西端に位置する。地目は、畠地と宅地となっている。土師器・山茶碗・常滑系器片・土鍊・銅鏡・鐵製品の散在がわずかにみられた。



## 9. 小西山遺跡(鹿間町宇小西山) ⑯

内部川中流右岸の標高70mほどの段丘北縁に立地する。鹿間町より六名町へ至る道路東側にあたる。地目は畠、及び植木畠である。採集遺物としては土師器片・須恵器片・山茶碗片・青磁片・近世陶器片・土鍊・砥石・石硯などがある。

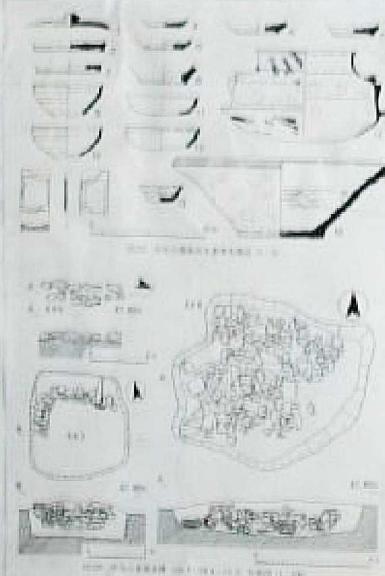
## 10. 出口遺跡(鹿間町宇出口) ⑯

内部川中流右岸の標高65m前後の台地中位面北縁に立地する。鹿間集落の東端近くに位置する。地目は、畠地および宅地である。弥生時代の遺物のほか、土師器片(杯・羽釜ほか)・山茶碗片(体部片)・常滑系器片などがある。時期的には、鎌倉時代から室町時代におけるものと考えられる。



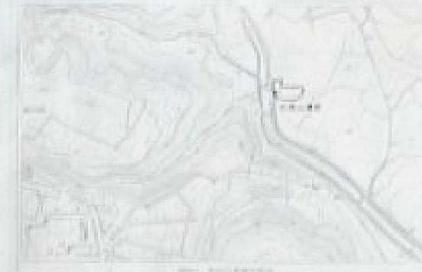
## 11. 鹿間東山遺跡(鹿間町東山)①

〔写真は弥生時代〕  
出口遺跡の東方400m程に  
あたる。標高は62m前後で、地目は畠地および宅地である。南側を県道鈴鹿宮峯線が  
通過し東方300m程で県三和四日市線が  
分岐する。畠地の多くが植木畠や牧草地となつてあり、遺物の散布状況をうかがう環境としてはよくない。弥生時代の遺物のほか須恵  
器片や山茶碗片が量みられる。



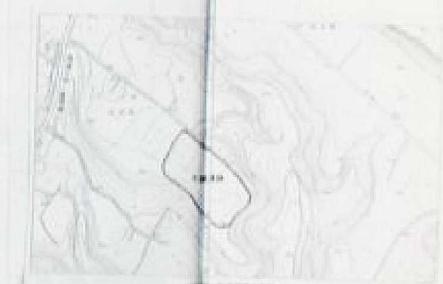
## 12. 中尾山遺跡(山田町中尾山)④

〔写真は室町時代〕  
足見川中流左岸の標高45mの  
開折谷の微高地に立地する。周辺部  
より3~4m高い。山田町から小林町に至る  
道路の西側にあたる。南北の台地との比高  
は25mほどである。室町時代の土坑四基・  
構一筋のほか、時期不明の小穴・土坑・  
溝などを検出した。



## 13. 宮蔵遺跡(山田町宇宮蔵)③

〔写真は匁〕足見川中流左岸に、舌状に張  
り出した標高76m前後の台地尖端に立  
地している。山田町の集落より高花平田地  
に至る県道小林鹿間線の東方にあたる。  
地目は、茶畠および野菜畠である。奈良  
時代から鎌倉時代にかけての遺物が  
出土した。採集遺物には、土師器の壺・  
甕・羽釜小片、須恵器の平底壺、擬宝珠  
鋤壺蓋、甕ないし壺の破片、灰釉陶  
器の碗・瓶など、山茶碗、砾石などがある。



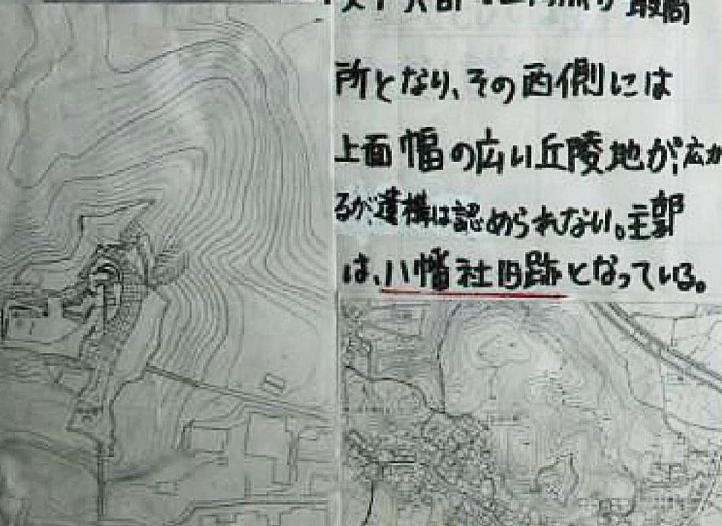
## 六、中世城館跡

### 1. 山田城跡(山田町字吉ヶ原)③⑦



四日市市の南部を東流する内部川の支流、足見川と鎌谷川に挟まれた独立丘陵である山田丘陵に位置する。城跡は、山田町の集落の北方に広がる丘陵東端部に立地する。集落との比高は、約20mである。この丘陵中央部は三角点が最高

所となり、その西側には上面幅の広い丘陵地が広がるが遺構は認められない。主郭は、小幡社跡となっている。



### 2. 和無田城跡(和無田町字三泽・同町字西堀)③⑧

和無田町は、内部川の右岸に広がる水沢扇状地を母体とする高位段丘上に位置する。段丘は、標高約77m前後で緩く東に傾斜しているが、段丘面は平坦である。集落の北側の内部川低地との比高は約7mである。城館跡あるいは城館集落の可能性が強い小字名として集落中央部に「三条(山城か)」が、そしてその東西に「東堀」「西堀」が残る。



### 3. 鹿間城跡(鹿間町字中屋敷・同町字市場)

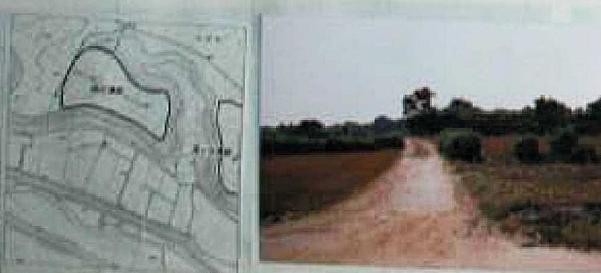
鹿間町は、内部川の右岸に広がる水沢扇状地を母体とする高位段丘上に位置する。一帯は、標高約70m前後で緩く東に傾斜しているが、段丘上は平坦である。集落の北側の内部川低地との比高は、約22mである。段丘上に集落が発達しており、地図本にも城跡の記載がなく、小字名に「中屋敷」「市場」が残されている。



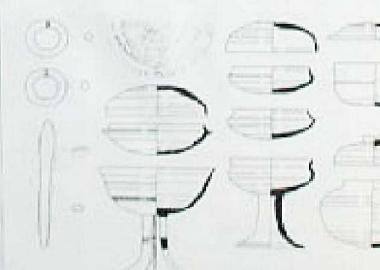
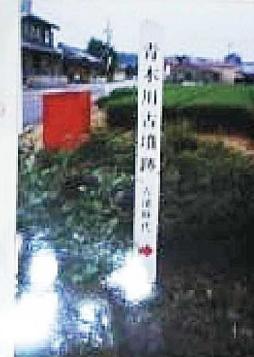
## 七、その他（地区外）

### 1. 扇広遺跡（北小松町字北坂上）④〇

内部川中流左岸の標高約65m前後の台地上に立地する。北小松古墳群の西方約350mにあたる。南側の内部川沖積低地面との比高は20m程である。地目は茶畑・栗畑・野菜畠となっている。採集遺物は小量であるが古墳時代後期の土師器片（壺）、須恵器片（筒のみ）、十列引片や寛永通宝（背文、径2.5cm）がある。南側に水田や耕地を臨む日当たりの良い場所であり、集落立地としては良好であるが、採集遺物が少なくて詳細については不明である。



### 2. 青木川古墳群（北小松町字青木原）④〇



青木川古墳群は、鎌谷川と足見川に挟まれた標高約133mの台地の南斜面に築かれた全二基の古墳群である。

号墳・二号墳ともに、当塚から墳丘は流失しており、一号墳は0.5m~1m程の大きさの石が「コ」の字状に並び、中から須恵器が

出土した。横穴式石室を持つ古墳である。出土した須恵器は、坪蓋、高坪ヶ各一点、提瓶2点の計4点で、六世紀半から七世紀初頭にかけてのもの。三号墳は0.5m~1m程の大きさの石が並んで発見された。埋葬施設は横穴式石室で、南西に開口して築かれていた。遺物は石室内部から須恵器三十四点が出土している。

### 3. 北野遺跡(梅町字北野)④

足見川上流 左岸の桟台地上に立地する。標高は、110m前後で、地目は茶畠および畑地である。チャト剥片のほか土師器片・須恵器片・灰釉陶器片・砥石片などが採取されている。古墳時代後期から奈良・平安時代ごろの時期が考えられる



### 6. その他見つけた遺跡など



### 4. 小曾旧遺跡(美里町) (地区内)



ミルクロードより西側

ミルクロードより東側

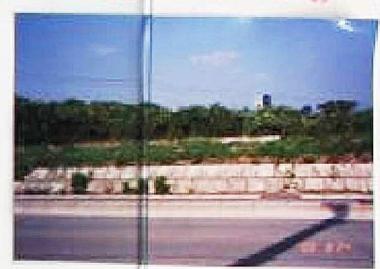
この古墳については、四一市史では、説明されていないが、遺跡地図には示されていた。時代は、古墳時代で遺跡の範囲は、東西約160m、南北約160mである。須恵器が出土している。



←天日川の水源地



### 5. 向山遺跡(山田町) (地区内)



この遺跡についても市史には説かれていませんが遺跡地図には示されています。時代は、平安以降で範囲は東西約70m、南北約170mである。土師器・灰釉陶器などが出土している。

→天日川の水源地



# 6. 分かったこと

- ① 小山田地区にも 沢山の遺跡や古墳がありそのほとんどが消めつ 古墳で茶畑や野菜畑山や荒地になっている。
- ② 地元の人や 地主の人でさえ詳しくは知らないことが多かった。
- ③ 内部川、足見川、鎌谷川などにはさまれた 所が 多く開析谷から約10m~100mくらいの丘陵地が多く。
- ④ 遺跡名は 小字名を使ってつけられている。
- ⑤ 美里町字内戸谷の 内戸谷B遺跡が 市内で最も古い旧石器時代のナイフ形石器が出土している。
- ⑥ 堂ヶ山町字一色山の一色山遺跡は押型文土器出土遺跡としては現在県下最古の土器群である。
- ⑦ 堂ヶ山町字大脇水沢町字嶋の大塚野古墳群は市の最も西の地域に築営された古墳群である。
- ⑧ 鹿間町字穴塚字孫ヶ谷の穴塚古墳群は、四日市市南部地域で最も大形の円墳である。
- ⑨ 出土した物の形、色、種類、大きさ、作り方、土などいろいろな面からその出土品がいつ頃の時代の物かを判断している。大変難しく苦労が多い。
- ⑩ 堂ヶ山町字一色の一色遺跡は、内部川中流域では最大規模の遺跡である。

# 7. 感想

- ほとんどうが消滅古墳で、大変苦労してさかしても古墳跡など"が残っていなかつたので、とても残念だった。
- 四日市市博物館で、和田ヶ平遺跡などから採集されたものを見た時、実際にこんなにきれいなものが"あったのだ"ととても感動しました。
- 二年前に青森の三内丸山遺跡やサークルストーンを見学した時には、今ほど興味がわかないが、たけど、北小松の菅野遺跡や、佐賀県の吉野ヶ里遺跡、鈴鹿の伊勢国分寺跡も見学できて、とても歴史がおもしろいと思うようになりました。
- また最近推古天皇の墓らしい物が見つかったけど、そういう遺跡の発見と聞くだけでわくわくするようになりました。
- 実際に出かけてみるとわからないので暑くて大変でした。
- 小山町の西村一善様に沢山の資料をおかりしましたが、遺跡に関しては、は"く大量なので、調べるのに工労しました。考古学の専門用語の読み方や意味が難しくて、文献を読んでいてもなかなか理解できなかった。小山田じゅうを回ったので小山田地区のことがよくわかつたのです。

## 8. 今後の課題

どの遺跡も、川の近くにあることが分かりました。そこで、今後は、調査を広げて、水沢地区、桜地区、内部地区、川島地区というようにつなぐ区を広げてもおもしろいかも知れない。

考えてみても、おもしろいかも知れない。

小山田地区全体をぐるっとまわってみて、他にもいろいろな史跡がある事を知りました。しかし、地元の人や地主の人でさえ詳しくない事が多い、きちんとした小山田地区のマップさえありません。すばらしい小山田をもっと沢山の人に知ってもらいたい、伝えていきたいと思いました。

ためにも、ぜひマップが必要だと思いました。

そこで、今後はさらに、史跡や名跡などをたずねて 小山田のマップ作りをしてみたいと思います。